

3作型で多収量となる沖縄県全域向けサトウキビ新品種候補「RK97-14」

発芽性と茎の伸長性に優れ、広域的に多収が得られる新品種候補「RK97-14」を育成

研究開発の背景

- ・沖縄県では、サトウキビ生産者の高齢化や担い手の減少により、サトウキビの作付け面積が減少し、平均単収の低下も相まって生産量は長期的な減少傾向にある。
- ・サトウキビ産業の活性化に寄与する安定して多収量な品種が求められている。

研究成果の内容



育成経過

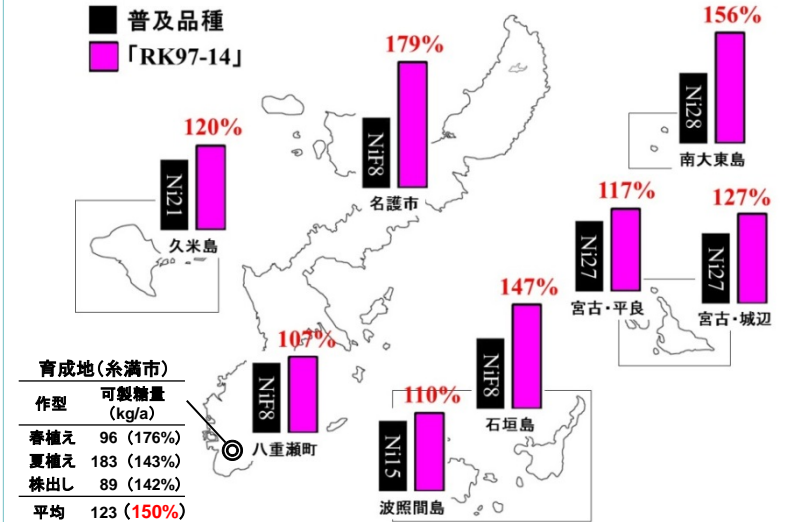
多収で病害抵抗性に優れる台湾育成品種「F172」と、耐倒伏性や脱葉性に優れる沖縄県育成系統「RF79-247」を交配し、春植え、夏植え、株出しの3作型で多収な「RK97-14」を育成した。

品種特性

1. 発芽性に優れる。
2. 初期伸長性に優れる。
3. 早期高糖性である。
4. 茎が長く太いので、1茎重が重い。
5. 原料茎重は、3作型で「NiF8」より重く、可製糖量も同様に多い。

導入メリット

普及品種に対して約30%*の増収が期待



期待される効果

・サトウキビの単収向上により農家収益の増加に寄与するとともに、生産量増大でサトウキビ産業および地域経済に大きな経済波及効果が期待できる。

導入をオススメする対象
沖縄県各地のサトウキビ生産者